
 展 観

「徳川・明治期心理学関係図書展」

1月24日から26日の3日間にわたって本館陳列室において、徳川・明治期心理学関係図書展を開催した。

本展示は明治時代のわが国の心理学書を中心に、徳川時代における心学、医学、禅、儒学等における心理学書、東洋心理学関係書、静坐関係書、および京大関係者によって刊行された心理学誌等約200点（一部大正、昭和を含む）を展示した。なかでも西田幾多郎博士の第4高等学校時代における、“心理学講義”の自筆ノートが来館者の注目を集めた。

4年後にはわが国において国際心理学会が開催されるが、わが国心理学の発展を願う上にすこぶる興味のある展示会であった。本展示は教育学部佐藤幸治教授を初め、教養部紫田実教授、岡本春一博士、柿崎祐一博士、西田静子氏、および学内関係図書室のご協力によって開催し得たものである。関係者のご好意にたいして厚くお礼申しあげる。

 特別講演会

一文献と書画一

去る2月6日午後3時より、本館部長室を講演会場にして、禅僧の墨跡に関する大家、立命館大学教授淡川康一氏の標記講演会が開催された。講演の主旨は、印刷文献の洪水の中で、その著者の思想、真髓に肉迫するためには、本人の筆跡に接することこそ、肝要であるという事で、ややもすると印刷された文献のみしか目にはいらない現代の文化を、洒脱な話術で批判され、仙涯和尚の真筆をはじめ、種々の原資料も被露されて、大へん有益であった。

 雑 記 帳

学外展観への資料出品記録

御存知のとおり、本学には、附属図書館をはじめ、大ていの部局図書室にも貴重文献とか、特殊文庫と呼ばれるコレクションがあって、学外のいろいろの団体が主催する展覧会に時折、出品されてきた。

ところで、ここ1年間に、そのような学外の展観への出品依頼がにわかに激増しているため、資料のなかには、文字通り席のあたたまるひまのないものさえある。何かの参考になると思われるので、ここに最近1年間くらいの間に、附属図書館があつかった展観を列举して御紹介することにした。

- 昭和41年9月9日～同21日『近代日本をひらいた人物展』東京新聞社主催、東京・小田急百貨店に「平野国臣の佩刀」を。
- 昭和42年1月7日～同18日『明治100年記念明治維新展』岡山県・市教委・山陽新聞社主催、岡山・天満屋百貨店に「吉田松陰肖像」他を。
- 昭和41年12月20日～42年2月25日『和算を中心とした日本の数学展』国立科学博物館など主催、東京・同館に榎益和澄著「参阿録」を。

- 昭和42年3月28日～4月2日『近代日本のあけぼの展』朝日新聞社主催、大阪・阪急百貨店に「吉田松陰木像」他を。
 - 昭和42年8月27日～9月4日『京都で刊行された古版本展』丸善京都支店主催、京都・同店に「慶長勅版日本書紀」を。
 - 昭和42年10月1日～11月5日『近代国家への歩み展』山口県・同県教委主催、山口・県立山口博物館に「奇兵隊日記」他を。
 - 昭和42年10月10日～同22日『明治百年展』毎日新聞社主催、東京・伊勢丹百貨店に「西郷南洲筆品川彌二郎宛書翰」他を。
 - 昭和42年11月30日～12月2日『湯浅半月展』同志社女子大学主催、京都・同大学に雑誌「東壁」他を。
 - 昭和43年1月27日～2月11日『名刀と遺品が語る明治百年展』香川県・高松市・四国新聞社他主催、高松・県立文化会館に「薩長芸三藩盟約書」他を。
 - 昭和43年2月6日～同月11日『坂本竜馬展』NHK大阪中央放送局主催、大阪・松坂屋百貨店に「坂本竜馬筆書翰」他を。
- 以上のほか、現在申込を受けているものが3種ある。

部局図書室のコンテンツ・シート・サービスについて

本学の部局（学部・研究所、教室）図書室の現況については、本紙の「東西南北」欄において逐次御紹介しているところであるが、各図書室とも、それぞれ工夫をこらしたサービスをおこなっており、その中にコンテンツ・シート・サービスという奉仕活動が続けているところがいくつかあって、利用者から好評を博している。

このサービスは、それぞれの図書室でとっている近着雑誌の目次をすべて収録して、編集の上、印刷配付するもので、その方法は、各図書室によって色々である。例えば、医学部のように、洋雑誌の目次ページをそのままゼロックスにうつして印刷し、医学関係の全教官に配布するところもあるし、薬学部や数理解析研究所のように、外国から雑誌が到着するより2ヶ月も早く、「カレント・コンテンツ」という米国雑誌から、自館でとっている雑誌の目次をひろって研究者に配布するところもある。また、ゼロックスを使わないで、謄写版印刷で配布するところもあり、とっている全雑誌の目次をとることが不可能な場合、最も利用の多い雑誌を、各教官毎に5種類撰んでおこなう所もある。なかには、理学部の数学教室のように、雑誌は勿論、単行本、レクチャー・ノートの目次まで紹介している所もあって、方法は千差万別だが、それぞれ、人員・予算の不足をかかえながら、よりよい図書館サービスに努めていることに変わりはない。現在すでにこのサービスをやっている図書室は、医学図書館をはじめ、薬学部、法学部、経済学部、農学部、化学研究所、数理解析研究所、基礎物理学研究所、理学部数学教室、同物理学第二教室の各図書室である。もっとも、コンテンツ・シート・サービスは所属部局、教室の利用者を対象としたものであるから、原則的に、他部局の者が利用することはできないものであるけれども、ここに部局図書室のおこなうサービスの一例を御紹介する次第である。